

**県都グランドデザイン（案）に関する
意見募集の結果と県都にぎわい創生協議会の考え方**

【全体】

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
1	最小限の投資で最大限の効果を上げられるようなプランとしてほしい。	プロジェクトの実施・具体化に当たっては社会環境の変化や事業の進捗を踏まえ、「県都デザイン推進会議」での議論を通じてより効果的なものになるよう進めていきます。
2	今後の人口減少時代・大空家空地時代・大廃業時代に耐えられる構想こそ必要ではないか。	「県都グランドデザイン」は、福井まちなかに様々な世代や立場の人が集い、交流し、新たな「たのしみ」「くらし」「しごと」を生み出す好循環をつくり出し、県都の持続的なにぎわい創出につなげていくことを目指しています。 「ふくい創生・人口減少対策戦略」など人口減少等の課題に対応する戦略とも連携を取りながら、県都のにぎわい創出を進めていきます。
3	長く愛されるまちにするため、コンペをした上で建築家を招き、まちづくり計画を戦略的に緻密に作り上げてほしい。	「県都グランドデザイン」は、福井商工会議所・福井県・福井市が協力・連携し、都市計画の専門家の意見も聞きながら、今後のまちづくりの指針として策定したものです。今後は、「県都デザイン推進会議」での議論を通じて、持続的なにぎわい創生につながるプロジェクトを実行していきます。
4	福井はよそ者をなかなか受け入れてくれない印象があるが、今回のグランドデザインではそれを打破してほしい。ちゃんとよそ者の視点からも福井を見つめてほしい。	「県都グランドデザイン」では、「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」を将来像として掲げており、多様な人のまちづくりへの参画を期待しています。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
5	県都グランドデザイン(案)にある「たのしみ」「暮らし」「しごと」の他に「ショッピング」があるのではないかな。	「ショッピング」も含め、目標5において、通り・エリアごとに特徴のある商業エリアを形成するとしています。
6	駅前には福井県の顔にならないといけない。今のままでは県外からの旅行客は増えないと思う。	県外からの旅行客に満足していただける魅力的な福井まちなかになるよう、福井城址や足羽川をはじめとした歴史・自然コンテンツの魅力向上や、商業エリアのブランディング強化などを進めていきます。
7	ゼロエミッションやSDGsの理念に沿ったまちづくりに向けた取り組みは行っていくのか。	「県都グランドデザイン」の実行にあたっては、SDGsの理念に沿いながら、多様な人が集い、交流し、新たな「たのしみ」「暮らし」「しごと」を生み出し、まちの魅力を高めることでさらに多くの人々が惹きつけられ、混ざり合い、次の価値をつくり出すといった好循環により県都の持続的なにぎわい創生につなげていくことを目指しています。
8	今回の計画を具体的に進めていくためには、優秀な人材と豊富な資金が必要だと思われる。エリアマネジメントを行う組織は県内外から優秀なスタッフを補充する必要があるが、計画を推進させるための体制づくりをどう考えているのか。	エリアマネジメントを行う組織として、まちづくり福井株式会社を基盤とした、新しい組織体制を検討しています。人員拡充を行うほか、優秀な人材を確保するための体制づくりを引き続き検討していきます。

【“たのしみ”をつくる】

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
9	お堀において、島根や倉敷の屋形船や手漕ぎ・足漕ぎボートに乗れるようにすることで、多様な人が楽しめるようにしてはどうか。	福井城址のお堀での遊覧船運航について、目標1に記載しています。事業実施に当たっては、いただいた御意見を参考にさせていただきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
10	福井城址は福井の歴史のシンボルとして整備し、県庁は早く移転させるべきである。	県庁の移転・再配置については、庁舎の耐用年数や社会情勢を踏まえて議論されていくものと考えています。
11	福井城の本丸御殿を復元し入城料を取れる施設で、街の象徴的な場所にしてほしい。	城郭施設の復元に当たっては、県民の気運の高まりが必要不可欠であり、社会情勢の変化等も踏まえて検討していくべきものと考えています。
12	福井城址について、櫓だけでなく天守閣を復元する考えはないのか。図面などの資料がなくても、全く同じものを復元するのではなく、イメージに合った天守閣を再生すればよいのではないのか。費用の問題で話題に上がらないのか。	城郭施設の復元は、絵図や文献など史料調査を十分に行い、史実に基づいて実施することが重要であり、県民の気運の高まりのもと、専門家の意見を聞きながら進めていく必要があると考えています。
13	今後整備される福井城址南東の芝生広場に二の丸、三の丸にあった史跡を紹介する案内板を設けてはどうか。	広場の整備に当たってはいただいた御意見を参考にさせていただきます。
14	福井県が取得する土地に明道館史跡の復元または痕跡碑や案内板の設置をしてはどうか。	
15	中央公園に透明屋根があれば雨天の日でもイベントが実施できてよいと思う。	中央公園ではイベント開催等を通じて人が集い楽しむ空間を形成することとしており、公園整備に当たってはいただいた御意見を参考に進めていきます。
16	足羽川の親水空間化に当たっては、今後の豪雨や洪水が発生することを考慮してメンテナンスしやすい整備をしていく考えなのか。	御指摘のとおり、河川内に配置される施設は、洪水の流下に支障とならないものである必要があります。また、メンテナンスが容易であることは重要な要素であると考えます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
17	<p>ライトアップ等を夜中まで実施すると、人が集うことによる騒音等が増え、近隣住民にとって迷惑なことにもなりかねない。川沿いのマンションには子育て世帯も入居している。イベント、ライトアップ等、特に夜にかけて実施するものについては、近隣住民にも配慮してほしい。</p>	<p>にぎわい創出と良好な生活環境の確保の両立は重要な観点であり、プロジェクトの実行に当たっては、周辺的生活環境への配慮や自然環境への影響を考慮して進めていきます。</p>
18	<p>浜町の飲食店街については、テラス席からライトアップされた足羽川や堤防の桜並木などを眺めながら、食事ができたらよい。また、県の伝統工芸を活用した店舗とし、どの店舗も特徴があり、統一された規格の暖簾が下がっているとよい。</p>	<p>魅力ある店舗の出店やリノベーションにつながるよう、県都まちなか再生ファンドにおいて、支援していきます。</p>
19	<p>歴史資産の位置と探索ルートを示す案内板を福井駅西口、東口に設けるとともに、史跡から史跡に行く途中に、どの方向に何があるかを示す表示も設け、歩道を石畳で統一することにより、簡単に史跡を回れるようにしてはどうか。</p>	<p>歴史資産の周遊を促進する誘導サインを設置することとしており、案内機能の強化に当たってはいただいた御意見を参考に進めていきます。</p>
20	<p>中心市街地の通り名に、グリフィス通り、松平春嶽通りといったように、歴史的な人物名を付け、それらの銅像も立て、歴史あふれる界限にしてはどうか。</p>	<p>いただいた御意見を参考に、歴史の専門家による解説付きまち歩きや、周遊を促進する誘導サインの設置などを通じて、歴史が感じられる界限を目指します。</p>
21	<p>町家風に改装する店舗への補助金を通じて城下町を復元すべきである。</p>	<p>景観に関するガイドライン等を踏まえながら、良好なまちなみづくりを進めていきます。</p>

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
22	空襲や震災により、跡が残っていない歴史資産もあるため、そのような歴史資産を紹介する解説板や石碑等を設置するとともに、既にある解説板等はデザインを統一してはどうか。	いただいた御意見を参考に、歴史を感じることでできるまちづくりを進めていきます。
23	福井駅前電車通り北区B街区の西側に震災メモリアルスポットを作り、地震の脅威が実感できる臨場感あふれる写真や「片腕の彫刻家」の紙芝居にアクセスできるQRコードを掲示する看板の設置、「片腕の彫刻家」のストーリーを知ることができる子どもの像の設置、カールマイダンスが写真を撮った場所が感じられるデザインのマンホールの設置、ミニコンサートなどができるデザイン性のある広場づくりをしてほしい。	
24	これからは歴史ある建造物を大切に、生かしていく必要があると思われる。市内にある神社仏閣の中には古いものもあるため、これをまちづくりに生かしてほしい。	いただいた御意見は、歴史案内ボランティアガイドによる解説に御提案の内容を取り入れるなど、歴史ある建造物を活かしたまちづくりの参考にさせていただきます。
25	市内に配置するベンチ、マンホール蓋、その他の工作物などには、美的センスやユーモアや遊び心があるように配慮するとよい。	ベンチ、マンホール蓋、その他の工作物などの設置に当たっては、設置場所や周囲の状況等に配慮していきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
26	<p>福井駅周辺の恐竜モニュメント設置については、1つの大きなモニュメントを作るだけでなく、例えば、10個ほどの小さな恐竜モニュメントをまちなかの色々なところに配置し、恐竜を探す楽しみを提供するといった取り組みをしてはどうか。毎月、そのモニュメントを置く場所を変えれば、子どもは探しに行きたいと親に誘うようになる。駅舎の上から、モニュメントの森に向けたジップラインなどがあっても面白い。アオッサに、日本一の恐竜ガチャガチャショップを設置したり、フィギュアメーカーの恐竜展示館を誘致すると、子どもにとって魅力的な場所になるのではないか。</p>	<p>恐竜エリア拡大プロジェクトでは、西口広場に大型モニュメントを設置するほか、駅周辺に大小複数のモニュメントを設置する予定です。</p> <p>また、ARディスプレイや3Dフォログラムといったモニュメントとは趣向の異なる恐竜コンテンツの配置を予定しており、周辺の回遊性を高めていきたいと考えています。</p> <p>さらに、周辺の恐竜コンテンツを紹介する恐竜コンシェルジュといった機能も整備予定であり、来訪者が恐竜を探せる環境を提供していきたいと考えています。</p>
27	<p>駅を降りたら直ぐにジュラシックパーク並に古代にタイムスリップしたかのような大袈裟に恐竜の世界を作る、駅が恐竜のお腹の中に見立てる、駅全体をジャングルみたいにする、福井県の玄関は古代文明に近づけるなどするとよい。</p>	<p>これまでのまちづくりの議論において、新幹線福井駅舎は一乗谷朝倉氏遺跡の唐門をモチーフにしたデザインとするなど、恐竜以外のコンテンツも配置されており、駅全体を恐竜がいるジャングルにすることは困難であると承知しています。</p> <p>御提案いただいた内容は、恐竜ファンにとっては非常に魅力的なものであるため、今後の整備の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
28	<p>恐竜のモニュメントはすぐに飽きられると思われるのでこれ以上いらないと思う。恐竜頼みではなく、長く愛されるまちにするためには、滋賀県長浜市にある湖のスコーレや富山市にある冠水公園のような年齢を問わず人を惹きつける洗練された空間を作ればよいのではないか。</p>	<p>「県都グランドデザイン」では、将来像を「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」とし、恐竜だけではなく、歴史や自然、ショッピングや食、学びや共創など、多様なプレーヤーが活躍できる場をつくっていくことを構想しています。</p>
29	<p>都市機能を郊外から福井駅周辺に集中させるということについて、県立美術館の新築移転を今回の構想の中で想定しているのか。多目的アリーナの建設候補地は福井市の文化会館の新築移転先として想定されている場所であるが、ここに県立美術館を移転するのもよいかと思う。</p>	<p>「県都グランドデザイン」では、基本方針として分散した都市機能をまちなかに再配置するとしていますが、具体的にどの都市機能を再配置するかについては、今後検討されることとなります。</p>
30	<p>セーレンプラネットは、県内の大学生や小中学校のある学年に年間パスポートを無料配布することを検討してはどうか。</p> <p>子どもがセーレンプラネットに行きたがれば、子どもを連れていく大人はチケットを購入するので、まちなか来訪につながる。期間限定でプラネタリウムの中をカフェにして星を見ながら飲食を楽しむことができると面白いと思うし、常設で有名アーティストによる作品を展示すると近県からの来県につながるのではないか。</p>	<p>セーレンプラネット（福井市自然史博物館分館）は指定管理制度を導入しており、運営や展示内容の検討に当たっては、御提案いただいた内容を参考にさせていただきます。</p>

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
31	多目的アリーナは、県外資本が主体となって事業を行うならともかく、初期投資やランニングコスト考慮するとリスクが大きいのではないか。	今後アリーナ整備を行う会社において、採算性を十分に検討した上で事業展開が図られるものと考えます。
32	多目的アリーナは採算が取れるのか。最近、サンドームが人気アイドルのライブ会場としてよく使用されているが、多目的アリーナは駅の近くにあるため、このような使い方がなされる可能性はあると思われる。一方で、プロスポーツの拠点としてのアリーナは採算性がないと思われる。	
33	多目的アリーナは一部の層の集客にしかないのではないか。	プロ・アマチュアのスポーツの拠点として、また、コンサートや学会などのコンベンション会場として、多目的に使用可能な施設にすることで、県内外から広く集客を見込めるものと考えます。
34	多目的アリーナについては、関係者以外の駐車場は減らす、もしくは予約制にすることで公共交通利用促進にも繋がるのではないか。	駅に近い中心市街地にアリーナを整備することで、公共交通の利用促進につながるものと考えます。

【“暮らし”をつくる】

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
35	駅周辺にマンションばかりを建てても人が集まるとは思えない。	県都グランドデザインでは、都市機能の集約化や再配置を行い、さまざまな世代や立場の人が混ざり合い、新しい「たのしみ」「暮らし」「しごと」を創り出すことを目指しています。 商業や業務、居住などさまざまな施設が立地することで、にぎわいが創出されるものと考えています。
36	人通りが少ないから出店するお店がない、お店がないから訪れる人も減るといふ悪循環があるため、アオッサを活用して駐車場代を払っても行くメリットを感じられるような店舗を誘致すべきではないか。	魅力ある店舗の出店やリノベーションにつながるよう、県都まちなか再生ファンドにおいて、支援していきます。
37	福井駅周辺に東京や大阪の都市部の商業施設を誘致してほしい。	既存商業施設等への影響や県内経済への波及効果なども考慮し、慎重に検討していきます。
38	県都における百貨店存続の動向について考慮すべきではないか。	百貨店は、駅前のにぎわいを創出する核となる店舗だと考えており、今後も存続していくよう、集客イベントを開催するなど支援していきます。
39	百貨店の屋上を通年開放する等の施策を実行してはどうか。	夏季期間におけるビアガーデンとしての活用やイベント開催のほか、福井商工会議所と百貨店とで連携協定を結ぶなどの取組みを行っています。今後も引き続き施設活用の検討を行うほか、百貨店以外のまちなかの高層建造物の屋上利活用も検討していきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
40	農産物販売店、井ぶりが食べられたり地の魚を地方発送できる鮮魚店、日用品の販売店、伝統工芸品の販売店、福井の美味しいパン屋や菓子店のアンテナショップなど、観光客も地元の人も買い物を楽しめるような店舗を集積し、駅周辺の商店街を1つのショッピングセンターと考えて整備することが不可欠ではないか。	さまざまな店舗が駅周辺にできることにより、エリアの魅力がより高まっていくと考えており、店舗が集積していくよう県都まちなか再生ファンドにおいて、支援していきます。
41	新栄商店街は、まだシャッターの下りた空き店舗が目立つ。また、耐震面で問題のある古い店舗やアーケードなどが多くあり、大変危険であるため、新栄商店街の再生が急がれるが、具体的な取組みの計画はあるのか。	新栄商店街については、県都まちなか再生ファンド事業によるリノベーションなどに対する支援を開始しており、更なる支援制度についても検討していきます。
42	福井駅前電車通り北地区A街区再開発事業のホテル・オフィス棟の最上階は全ての人が福井駅前の景色を楽しめる展望台にすべきではないか。	再開発事業における意思決定は地権者等からなる組合員の議決によって進められるものであり、事業計画を大幅に変更することは難しいものと承知しています。 今後の再開発事業の進捗把握については、御提案いただいた内容を参考にさせていただきます。
43	福井駅周辺には都市型のレジャー施設が不足しているので、都市型のレジャー施設・アミューズメント施設を誘致するとともに、レジャー施設とセットで高さ50m程度の観覧車も作り、東京・大阪の観覧車のようにイルミネーションをつけてほしい。	まちなかのにぎわい創出に資する民間投資を呼び込むためのまちづくりを進めるとともに、個別の誘致案件については必要に応じて支援を検討していきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
44	レジャー施設のようなみんなが楽しめる商業施設ができるとよいが、商業施設はどのように整備していく計画になっているのか。	商業施設については、県都まちなか再生ファンドを活用したリノベーションや建替えが進むとともに、各エリアのコンセプトに沿った店舗が出店、集積していくことを通じて、まちなかの各エリアが持つそれぞれの特色がさらに際立っていくものと考えています。
45	福井市中心部には、金沢の近江町市場や敦賀の日本海さかな街のような場所はなく、このような場所がにぎわいづくりにはよいと思うが、こうした構想は今回の計画にはないのか。福井駅周辺の鉄道高架下は、現在は、駐輪場や駐車場、資材置き場などとして使用されているが、ここを飲み屋街や新鮮な魚介類などの市場などとして使用するとよいかと思われる。あるいは、新栄商店街を市場にすることも考えられる。	食をテーマとしたにぎわいづくりについては、県都まちなか再生ファンドを活用した洗練された店舗の立ち並ぶエリア特色のある店舗の誘致、歩行者空間にキッチンカーや屋外飲食スペースを設ける「ふくみち」の推進、福井の食を楽しめるフードホールの整備、福井のそば・地酒・酒の肴を楽しめる「SOBAR」店舗の集積等を進めることとしており、御提案いただいた内容を参考にさせていただきます。
46	福井の蕎麦は美味しいので、広島駅の「お好み焼き街」のように新幹線に合わせてアオッサの中にでも「おろしそば街」があるとよい。	福井名物の越前おろしそばと福井の地酒や酒の肴を楽しめる店舗を「SOBAR（ソバー）」としてブランド化し、福井駅周辺を中心に展開し、おろしそばのまちとして、福井が誇るそばの食文化を新たな視点で発信していきます。
47	県内各地と福井駅の直通バスの運営による移動時間の軽減など、交通の便も一緒に考慮しながら県都ブランドデザインを進めてほしい。	路線バスの運行については、バス事業者において移動ニーズを踏まえた路線・ダイヤ設定を行っています。引き続き、鉄道や路線バスの利用を促進する取組みを検討していきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
48	15分に1本くらいのバスと日常の買い物ができる駅前商店街の整備が最優先課題ではないか。琴平町の定額タクシーのように、定額バスを走らせてはどうか。交通事業者にとっては、定額乗車券は固定収入になることから、利便性と経営持続性の両立が期待できる。また、定額乗車券を購入することが駅前に頻回に出かける誘因となることから、商店の集積が期待できる。	交通環境については、新たなモビリティサービスの導入により、まちなかへの来訪やまちなかでの移動を快適にするとしており、公共交通機関の利便性の向上に当たってはいただいた御意見を参考にさせていただきます。
49	えちぜん鉄道は新幹線幹線開業時の乗換え利便性のため20分に1本にしてほしい。	えちぜん鉄道では、新幹線開業に併せて、乗換え利便性も考え、新幹線との接続を考慮したダイヤ設定について検討される予定です。
50	市内に目立つコインパーキングは、まちづくりの中でどのように位置づけるのか。美観の工夫ができないものなのか。また、中心市街地の指定区画では立地を認めないなどして極力減らすことはできないのか。	北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道の全線開通、市街地再開発事業の完成などにより、福井駅周辺が大きく様変わりしていく中であって、今後、これらのエリアについては民間主体による店舗誘致が進むものと期待しています。
51	まちなかに無料の駐車場を整備すると、既存の駐車場が商業地に転換されるのではないかと。例えば、福井県が取得する土地や中央大通りの車線の一部を立体駐車場にし、屋上を公園化すれば市民の息の地となり、観光名所にもなるのではないかと。これらの駐車場は1階を電気自動車専用にするれば、SDGsの観点から、電力会社からの協力が得られるのではないかと。	御提案いただいた内容については、今後のまちなかの駐車場のあり方を検討する際の参考にさせていただきます。

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
52	電動シニアカーまたは無人自動運転車の専用道路を整備すべきである。	御提案いただいた内容については、交通事情の動向や変化等を踏まえながら、事業推進の参考にさせていただきます。

【“しごと”をつくる】

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
53	ティーンエイジャーが福井を好きになり、福井に残りたい、福井で仕事をして家庭を持ちたいと思えるような場所をまちなかに作ってほしい。(東京都武蔵野市の武蔵野プレイスのような、若者たちが友人と話ができ、飲食や宿題をしてもよく、夜には大人がワークショップをすることもできる施設を想定)	ふくまち大学プログラムを推進することなどにより、誰もがまちなかで気軽に交流できる場づくりを進めていきます。

【その他】

No.	意見	意見に対する協議会の考え方
54	県庁舎、県議会議事堂、県警本部は福井城址から郊外に移転すべきである。	県庁舎等については、今後相当の期間、利用可能な状況にあり、移転先については、移転が現実的な課題となった時期における社会情勢等を踏まえて議論されていくものと考えています。
55	駅周辺の店舗が売上を確保するためには駅周辺で働く人のランチや帰宅時の買い物需要が重要である。このため、県庁の郊外移転は望ましくない。	
56	県庁舎や県議会議事堂を新たに建設するより、複数の既存の建物をリノベーションし、DXを駆使してそれら繋いで県庁運営を行い、全国でも先進的な取組みとして有名になることを目指してほしい。	貴重な御意見として、今後の参考にさせていただきます。